

KUCAヒアリング資料に対する質問(R3/7/8, 7/12補足説明)

			質問	ページ	該当箇所	回答	京大 No	ヒアリン グ日	備考
82	1	データ	表1-3のパラメータの誤差影響について、U重量を6%減少した場合について、「ー」としている理由を説明すること。最大出力、0.1Wまでの時間、積算出力を記載すること。	10～	表1-3～				
83	2	図の追加	原子炉起動時の誤引抜きについて、積算出力のグラフは、スクラム後出力が0.1Wに低下するまでの解析範囲をカバーするグラフを示すこと。また、評価量の特徴に応じて適当な時間スケールのグラフを追加すること。(他の事象も同様)	12、27等	図1-1 図1-2 図5-1 等				
84	3	解析	L5.5P-30炉心及びC45G(2H2O)4列炉心の温度変化について、積算出力と異なる傾向を示している。積算出力に対応した傾向を示さず直線的な変化を示している理由を詳しく説明すること。	12、27、 38等	図1-1 図1-2 図2-1 図2-2 等				
85	4	図の追加	積算出力及び温度の時間変化についてグラフを追加すること	34	図3-1 図3-2 図4-1 図4-2 等				
86	5	データの追加	表6-3に0.1Wまでの時間を追加すること	42	表4-3				
87	6	図の追加	積算出力・温度の時間変化の追加すること	43	図4-1 図4-2				
88	7	構成	「中性子発生設備又はパルス状中性子発生装置を臨界状態において利用」の解析結果については、ケースA、ケースBに分け、説明、表、グラフを示すこと。	44～52	本文 図表				
89	8	記載	「以上より、ケースBで温度上昇量が最大となったL2P～最も厳しい結果に近い値であると考えられる。」とあるが、ケースBではL2P-30炉心で最大となるが、表5-5のL5.5-30(中性子発生量0.89)における温度上昇は49.3℃であり、結果を反映した記載にはなっていないのではないか。この記載について説明すること。	46	本文 2-5				
90	9	解析条件	温度上昇b)の注釈において「出力分布を考慮した係数を掛ける」としているが、具体的な方法について詳しく説明すること。	47	表5-1				
91	10	データ	出力が120Wまで到達せず、マニュアルでスクラムした場合の時間及びスクラム時の出力を示すこと。	49～	表5-3～5-5				
92	11	図の追加	表5-5において上昇温度が最大となっている炉心(L5.5P-30)について、中性子発生量を変化させた各ケース(X0.5.0、0.89,0.90,0.5)の図(出力、エネルギー、温度)の図を追加すること。	52	図5-1				

93	12	記載	バルス中性子源の影響評価結果に基づいて現在の強度における評価結果に対する説明を記載すること。	52	本文				関連質問No24
94	13	記載	起動用中性子源の評価上の扱いについて説明すること	58	本文 2-7				
95	14	図の追加 解析条件	上昇温度が最大であるL2P-30炉心について示すこと。 また、中心架台反応度について、Fitting curve(6次式)を示すこと	71	図7-8				
96	15	データ	1体の燃料体のうち10%の燃料要素が破損するとしているが、参考とした他の試験炉の燃料と比較して、仕様、使用条件などを説明すること。	76	本文				関連質問No53
97	16	データ	施設配置図に対して、別図で16方位を追加すること。	82	図8-1				
98	17	データ	燃料体1体あたりの積算出力が最大となるL3P-50炉心について、燃料体毎の積算出力を説明すること。	83	図8-2				
99	18	記載	表A-11について、燃料1体の線源強度の算出方法(想定している炉心、燃料体位置)を説明すること。	補足説明資料 (7/12)	質問番号 75回答				
100	19	その他	安全出力系の校正方法について、実際の定期検査での測定の実績を説明すること(炉心、検出器配置、出力校正の方法など)	補足説明資料 (7/12)	図A-2 図A-3				補足説明資料

KUCAヒアリング資料に対する質問(R3/7/8)

NO		質問	ページ	該当箇所	回答	備考
1	事実確認	第13条第1項第2号について、添付書類10の解析により確認された被ばく線量は、実験設備・実験物等の著しい損傷の方が大きいのではないか。	15	13条 2.2		7/13質問リストNo3の追加
2	事実確認	1KWの高出力運転時、炉心及び計装(線型出力系、安全出力系、温度計)の配置、並びに核計装及び架台室内エアモニターの指示値を整理すること。	31	17条 2.1		
3	事実確認	設計基準事故における架台室内エアモニター値について、設置場所、出力の監視範囲について説明すること。	32	17条 2.2		
4	記載	制御棒の誤引き抜きによる上昇温度の最大値は1.85°Cとしているが、これは軽水減速炉の値である。、固体減速架台では27.1°Cとなっているので確認すること	37	19条 2.1		
5	事実確認	仮想的な線源位置の設定の考え方を説明すること。 実測値があるガンマ線モニターについて具体的な設備名を示すこと	43	24条 2.1		
6	計算条件	図2に記載の「 $R=1.0e5$ 」と、2.3に記載の「半径方向距離は1km」は同値か。また、線源から評価点までの水平距離は、2.2によると130mではないのか。 なお、半径方向距離1kmとした理由を説明すること。	44	24条 2.3		
7	事実確認	鉄板製可動遮蔽の設置場所を図面で示すこと	46	25条 1		7/13質問リストNo8の追加